

主な特色ある取組

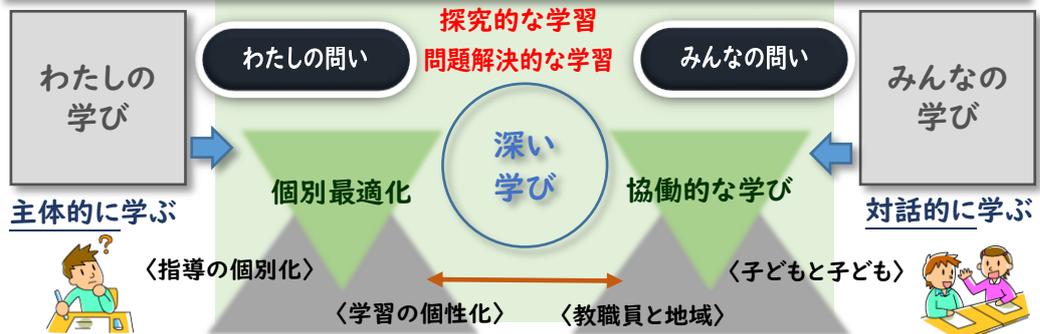
確かな力を
育てる
授業づくり

主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める。

I 学習の振り返りを通して、学習したことの価値や意義を自ら確認できる授業を展開し、次につながる意欲的な学びを引き出す。

II これまでの教育実践と ICT を適切に組み合わせ個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。

校内研究の充実



子どもが自ら進んで学び、みんなで学ぶ楽しさや喜びを感じることでできる授業をめざして

授業と連動した
課外学習
の取組

朝・昼・放課後に帯時間で学習タイムを設定。その時間に子どもたち一人一人に育てようとする力を明確にして、授業と連動した取組を行う。

里 SATO タイム：読書 言語能力・言語活用

朝

山 YAMA タイム：基礎・基本 反復の練習

昼

竹 TAKE タイム：個別の課題 得意・不得意

放課後

帯時間の学習の充実

心を育てる
読書活動の
推進

「子どもたちが思わず本を手に取りたくなる」図書館へと整備。読書週間には、教職員による“読み聞かせ”や子どもたちが思い思いの本を選べる“選書会”の実施。また、担任教員と“お話し宝石箱”(PTA 読み聞かせボランティア)のメンバーが連携を図り、「読書が好きになる」「学習につながる」読み聞かせを実施。



図書館活用と読み聞かせ

教科担任制を
取り入れる
高学年の授業

高学年では、教科担任制を取り入れる。複数の教職員が子どもたちに関わることで、**多面的・多角的に子どもを見とることができる**。良い点を認め、ほめることで、子どもたちの**自己肯定感を高める**。

地域の
教材・人材を
活かして
体験的に学ぶ

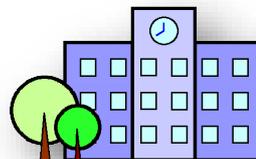
地域の教材・人材を生かす。多様で特色ある体験的な活動を、授業において積極的に取り入れる。

複数の視点でかかわる

統合で広がる地域から

新しい
義務教育学校
創設に向けて

西陵中学校区において、児童・生徒間の交流、小中の教職員による合同研修、中学校教員による授業など、3年後の小中一貫教育校の創設につながる教育活動を積極的に展開。



小中一貫教育の推進